

「日本留学海外拠点連携推進事業」ブラジル・日本拠点第2オフィス開所式
大使挨拶
(2022年3月11日)

みなさん、おはようございます。

本日、筑波大学の日本留学の海外拠点として、新たにサンタクルス病院内に Study in Japan 事務所が開所されますこと大変うれしく思います。

開所に当たって、サンタクルス病院石川ヘナート評議会会長や佐藤マリオ理事長、また、筑波大学の永田恭介学長や国際局大根田修国際室長をはじめとした多くの関係者の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

筑波大学は、南米における日本の高等教育機関の国際連携拠点として、2015年4月に Study in Japan 事務所をサンパウロ大学のキャンパス内に設立し、日本とブラジル、中南米諸国との間の橋渡しとして、留学生をはじめとした人的交流や学術交流の促進に取り組んでこられたと承知しています。

日本大使館も、今後の日伯関係の礎となる優秀なブラジルの学生の皆さんに、日本に留学をしてもらうべく、当地の大学や教育機関と連携して、様々な取組を実施しています。当大使館も筑波大学が実施しているオンラインを通じた日本留学フェアへの参加や、ブラジルの教育事情に関する情報提供を行い、筑波大学の取組に協力をしているところです。

また、筑波大学は、柔道の父といわれる加納治五郎とゆかりが深い大学でもであると承知しています。現在、日本大使館は柔道の公教育の導入をブラジル柔道連盟とともに取り組んでおりますが、日本の指導者がブラジルの柔道指導者へ講習を行う際に、筑波大学の岡田弘隆准教授にご協力をいただいております。3月9日にはオンラインイベントに私も出席させていただきました。

今回、筑波大学が新たに Study in Japan 事務所を設置するサンタクルス日本病院は、日系社会だけでなくブラジル社会にも高い医療サービスを提供してきました。

2021年6月には JICA の助成を得てがんセンターを設立するなど、最先端の機器と高度なスキルと知見をもつ専門家をそろえた学際的機能をもつ病院として、多くの人々の期待を集めています。

また、サンタクルス日本病院は、科学技術振興機構（JST）のさくらサイエンスプランを通じて、筑波大学と医療分野での交流、研修等を進めていると承知しております。以前から、さくらサイエンスプランのブラジル、中南米への展開を支援してきた私としてもうれしく思っており、2月3日のオンラインセミナーにも参加させていただいたところです。このように日本政府、日本大使館、サンパウロ総領事館としても、サンタクルス日本病院に様々な支援を行ってきております。新型コロナ禍の下で困難な状況が続いていますが、サンタクルス日本病院を更に大きく発展させるべく、引き続き支援してまいります。

このようにブラジルで既に多くの実績がある筑波大学とサンタクルス日本病院が、今回の事務所設置を契機に更に連携・協力を深め、今後ますます活躍をされることを期待しています。

新型コロナウイルスの影響で人的交流はいまだ難しい状況にあります。しかし、お互いの国や文化を理解し、グローバルな視点をもった人材を育成していくためには、人的交流は必要不可欠です。Study in Japan 事務所が交流の拠点となり、ブラジルを含む中南米諸国や、それぞれの国の日系社会との連携を深めることで、日本とブラジルの懸け橋となる人材、世界をリードする人材が羽ばたいていくことを強く願っています。

ありがとうございました。